

ソナタ・シリーズ 第1回

「開花」 初期のソナタ

—— ルンデ第25回公演 —— 小菅 優 ピアノ・リサイタル

Program

J.S. バッハ：ソナタ BWV963

ベートーヴェン：選帝侯ソナタ第2番 へ短調 WoO47-2

プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番 へ短調 op.1

ブラームス：ピアノ・ソナタ第3番 へ短調

プログラムを変更する場合がございます。ご承知おき願います。

©Takehiro Goto

2023 3/21 [火・祝] 14:30 開場
15:00 開演
Halle Runde (名古屋市昭和区桜山町)

『花束よりチケットを』

ルンデでは出演者のプレゼント等は受付にてお預かりいたしません。
そのお気持ちをチケットにかえて、ご家族、ご友人とお越しいただけ
ましたらうれしく思います。

[チケット代金 (全席自由)]

ペア	前売り 7,000 円	当 日 4,500 円
一般	前売り 4,000 円	当 日 2,500 円
学生	前売り 2,000 円	当 日 2,500 円

チケットの購入はこちらから

ルンデ
<https://dbf.jp/runde/r230321>

*未就学児のご入場はお断りいたします。





©Takehiro Goto

小菅 優 (ピアノ) YU KOSUGE, Piano

高度なテクニックと美しい音色、深い楽曲理解で最も注目を浴びているピアニストの一人。9歳より演奏活動を開始し、2005年ニューヨークのカーネギーホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタルデビューを行い、大成功を収めた。

これまでにドミトリエフ、デュトワ、小澤、ノリントン、オラモ、ノット等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、BBC響、NDRエルプフィル、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響、フランス放送響、スイスロマンド管等と共に演。10年ザルツブルク音楽祭で、ボゴレッチの代役としてヘレヴェッハ指揮カムラータ・ザルツブルクと共演。12年、紀尾井シンフォニエッタ（指揮：T.フィッシャー）のアメリカ・ツアーや、またシェレンベルガー指揮カムラータ・ザルツブルクの日本ツアーに参加しモーツアルトのピアノ協奏曲全8曲を共演。13年、服部謙二指揮ウィーン室内管と共に演、ウィーン・デビュー。また10年より15年まで、東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会（全8回）を行った。さらに現在はソロだけでなく室内樂や歌曲伴奏を含むベートーヴェンのすべてのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン詣」に取り組んでいる。

録音は、ソニーから発売しているライアン・ウィグルスワース指揮 BBC交響楽団による『藤倉大：ピアノ協奏曲<インパルス>&WHIM／ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調』をはじめ数多い。

第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオークラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。14年に第64回芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞、17年に第48回サントリー音楽賞受賞。2017年から4年にわたり、4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにしたリサイタル・シリーズ『Four Elements』を開催し好評を博した。

♪ ソナタ・シリーズ ♪

モーツアルトやベートーヴェンなど、古典派のピアノ・ソナタはピアニストにとって必ず通る道だと思いますが、ソナタの歴史を眺めていると、バロックから現代まで、こんなにまで劇的な変化を成し遂げ、色とりどりのものがあるのかと改めて感心させられます。

これまで私はベートーヴェンの全ピアノ・ソナタ・シリーズ、そして印象派や国民樂派などのレパートリーを含めたFour Elements のシリーズを行ってきました。

それらを経て、今度はソナタというテーマに基づき、様々な時代を歩む作曲家の限りない世界に挑戦したいと思います。

若さと意欲に溢れるものを紹介し（第1回）、“幻想”という自由な構成と想像力を楽しみ（第2回）、「変奏」の複雑にして、一つのテーマというところから生まれる多彩なアイディアに触れ（第3回）、単一樂章で一つの大好きなストーリーを語る革命的な道のりを歩み（第4回）、そして巨匠達の晩年のこの上ない深遠な世界（第5回）でその旅を締めくくりたいと思います。

今は40歳へと向かっていますが、そこを通りすぎたとき、音楽家としての成長において確実に得られるに違いないものを目指しています。

その中で、シーベルトのソナタは大きなゴールの一つです。何故なら、これほどまでに人間の心の奥深くまで探る旅は他にないからです。

闇、悲しみ、孤独、その深淵の世界の先には必ず美しいものもあり、その共存にはこの世界の哲学があると思うのです。

ソナタという一つのジャンルから、限りなく多彩で冒險的な音楽と出会い、そしてその奥深い世界を皆さんと探る5公演を、楽しくも実りのあるシリーズにしたいと思います。

第1回「開花」（初期のソナタ）

第1回は、それぞれの作曲家の原点に焦点を当てます。類稀な才能を發揮している大作曲家たちの初期作品は、意欲と情熱に溢れています。

私たちの持っている巨匠たちのイメージは、この初期の傑作を聴くことでより深まり、未知な一面を見ながら、彼らそれぞれの冒險的な野心を探求します。

J.S.バッハ：ソナタ BWV963

バッハは10歳で孤児になり、オルガニストの兄のもとで音楽の勉強をしながら学校を卒業し、リュネブルクで様々なオルガニストの演奏に触れた後、遂に自らオルガニストとしての職に就くに至ります。ソナタBWV963はそのころ1703~4年（18~19歳）に作曲したとされ、特にロ短調のフーガすでに円熟味を感じさせます。

ベートーヴェン：選帝侯ソナタ第2番 へ短調 WoO47-2

選帝侯ソナタはベートーヴェンが弱冠12~13歳（1782~3年）のときの作品で、ボンにおいてネーフェのもとで勉強していたころに書かれました。

若いベートーヴェンの作品は技巧的ですが、ラルゴで始まるこのソナタは、「悲愴」ソナタや後のへ短調の作品（「熱情」ソナタなど）を連想させるところもあり、彼の抒情性も垣間見せています。

プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番 へ短調 op.1

ピアニストの母親に毎日ベートーヴェンのソナタを聴かされながら育ち、この大作曲家からの影響を語っているプロコフィエフは、10歳になる前にすでにオペラを書く天才で、ペテルブルク音楽院に最年少の学生として受け入れられました。

15歳（1906年）のときにこのソナタの作曲を試み、それは自分の当時の作品群の中でも最高の作品と自称するほどの出来でした。

それは数年後に手を加えられ、プロコフィエフ自身により初演されたのち、1911年にソナタ作品1として出版されます。

この初期の終わりにあたる作品から遡る感情と若い情熱は、この時代ならではの魅力でいっぱいです。

ブラームス：ピアノ・ソナタ第3番 へ短調

1853年、20歳のブラームスは、尊敬するシューマンとその妻クララを訪ね、その才能は直ちに認められます。

シューマンはそれから彼に様々な助言をすると同時に、彼の作品が出版されるよう大きなサポートをします。

ブラームスのピアノ・ソナタはすべてこの初期時代に書かれており、その集大成のような「第3番」は5楽章という巨大な構成で、若さに満ちた激しい感情に溢れています。

詩的な綴じ樂章を持ち、希望に満ちた快活なフィナーレまでアイディアに富んでいます。

一つのシンフォニーを聴くように聴きこたえがある名作です。

Web Live Concert 同時開催

* ルンデ会員登録が必要です。詳しくはルンデWebサイトのチケット購入ページをご確認ください。

感染症対策のためのお願い

- 発熱（37.5 ℃以上）および体調不良の方の来場はお控えください。公演後でも構いませんので連絡いただきましたら、ルンデ主催の他公演への振替をいたします。
- マスクをご持参ください、ロビーよりご着用をお願いいたします。
- 物販はございません。また公演後の演奏者との交流も中止いたします。
- 感染症の流行状況により、席数を減らして公演を行う場合がございます。ご希望の席がご用意できない場合ございますことを承ください。
- チケットの半券にご記名のうえ、ご来場下さい。

 RUNDE

一般財団法人 ルンデ

〒466-0044 名古屋市昭和区桜山町1丁目21番

TEL : 052-846-8566 / E-mail : runde@dbf.jp

[アクセス]

ホールへお越しの方の駐車場ご利用はお断りいたします。

名古屋駅からは、名古屋市営地下鉄桜通線

金山駅からは、名古屋市営バスをご利用ください。

・名古屋市営地下鉄桜通線・鶴舞線「御器所駅」3番出口

・名古屋市営地下鉄桜通線「桜山駅」1番出口

・名古屋市営バス「桜山」

(それぞれ徒歩 10 分程度)

<https://dbf.jp/runde/>

